

3年1組 英語科学習指導案

第5校時 3年1組教室 指導者 立場 孝子

1 単元名 Sunshine English Course 3 Program3 Don't Ask Me That Question! 受動態

2 ねらい

- (1) 他者とのコミュニケーションを図ろう・協力しようとする意欲を高め、関わり合う態度を育成する。
- (2) 受動態の用法を正しく理解し、be動詞と過去分詞を同時に使用するという形にはめ込ませ、書いたり話したりできるようにさせる。

3 学習のとらえ方

(1) 生徒観

本学級の生徒は、基本的な授業規律や学習に向かう姿勢が比較的身に付いており、やるべきことをきちんとやろうとする生徒が多く、学習態度も前向きで落ち着いている。

さらに、本校の大半の生徒も、他校の生徒と同様に「知らないことは知りたい」「できないことはできるようにになりたい」「あまり理解していないことは理解したい」という知的欲求を多かれ少なかれもっている。しかし、中には、「英語は小学校や中学校の1・2年まではゲーム的な活動も比較的多くて簡単だったけれど、受験学年である3年生の内容はより高いレベルで難しそう」と言う生徒もいる。

本学級の多くの生徒は英語学習に意欲的であり、知的好奇心や学習意欲をもって学習に取り組もうとしている。その知的欲求を刺激し、英語など他国の言葉や文化に興味・関心をもたせ、さらに学ぼうとする意欲を育て、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や態度を磨いていく必要がある。そのために、ポイントを絞って、正しく丁寧に書写をさせることで、学力の向上と維持に努めている。時に、音声による自己表現は、思春期の真ただ中で次第に消極的になる傾向があるが、生徒にとって、自らの意思や意見を明確に表現していくことや、積極的に他者とコミュニケーションを図り、他とつながり合う力は大切である。したがって、学習規律とともに発表時の声の大きさや言い方をきちんとさせ、挨拶、姿勢、返事、言葉遣いなどを今後の進路選択のためにも継続して指導することで、より理想に近いあるべき姿の生徒になってほしいと願っている。

(2) 教材観

本単元は受動態を学習させる教材である。生徒はこれまでに、動詞が変化して過去分詞形になるという語形変化を、現在完了形で繰り返し学習してきた。ここでは、今までの「誰が～する」という能動態の視点の文を逆転させる受動態「何々は～される、された」などの構文が登場する。「～される者」や「～される物」を表現できる文型の学習を通して、視点の転換と文型の成り立ちへの理解を更に深め、文中の動詞の機能の理解を伸ばすこともできる。

また、過去分詞は前単元の現在完了形で使用されたが、理解が比較的容易な言語材料であった。したがって、過去分詞が受動態に組み込まれていても、be動詞の使い方さえしっかりしていれば、生徒には理解しやすいと考える。本教材は、受け身的な考え方を利用しながら、自分から他人へ、日本から世界に視野を広げさせることができる教材である。英語は言わずと知れた世界における国際言語である。英語を通して、生徒により国際的で地球規模の広い考え方を身に付けさせるためにも適した教材である。

(3) 指導観

英語を通して人に思いを伝えることを、生徒に「難しい」というイメージを与えず、英語を習得させるにはどうすればよいか、どのように指導すればよいか、どのような話題・教材を扱えば英語力の向上が図れるのか、と常日頃から考えている。英語では活動を仕組む機会を多く設定し、コミュニケーションを図りながら自己表現につなげていく活動が大半である。しかし、楽しい中にもきちんと目的をもった学習活動を仕組み、言語運用能力を向上させたいと考えてきた。

また、本学年の生徒は小学校で外国語活動を本格的には学習していないが、学びたい態度・自分を向上させたいという態度が見受けられる。そこで、自分の思いを伝えることを更に可能にする言語運用能力を身に付けることができるように、教材の精選・授業展開の工夫・内容の焦点化を図ってきた。また、生徒が英語を聴くことに慣れ親しむように、日頃から日本人である教師自らが積極的に英語で指示をするなど、Classroom Englishを使用して授業を展開している。この教材では有名な作品・歴史上の偉人・有名人・

京都の名所クイズ、パズル、ゲームのような課題 (task、タスク) をペアや班に与え、制限時間を設定して、生徒にできるだけ数多くの受動態を使用した文を作ることに挑戦させたい。そうすれば、「表現の能力」「理解の能力」を高め、実践的コミュニケーション能力を身に付けさせ、認め合い・関わり合おうとする生徒を育成することに近づくと考える。これらの指導を通して、これからのよりよい社会を築いていくことのできる意欲・能力である「社会性」のある生徒に育てたいと考える。

4 評価基準

| | コミュニケーションに対する関心・意欲・態度 | 表現の能力 | 理解の能力 | 言語・文化についての知識・理解 |
|-----------------|--|--|---|---|
| 本単元の評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> 相手の伝えようとしていることに興味・関心をもって聞くことができる。 新出文型を使用して、自分の意向を伝え、相手の意向を聞こうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 受動態を用いて、簡単な文を話したり、書いたりできる。 受動態を用いて話すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 受動態の文の意味を理解することができる。 受動態で指示された内容が理解でき、指示に適切に応じることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 文化の違いまで視点を広げるとともに、挨拶の仕方などを身に付けている。 新出語句の中のキーワードになるものを理解することができる。 文型とその語順を正しく理解している。 |
| 本時の学習活動における評価基準 | <p>A 相手に配慮しながら問いかけや発表ができる。</p> <p>B 自分から伝えようと意識している。</p> | <p>A 受動態を用いて、与えられた課題について簡潔に表現できる。</p> <p>B 文例の形を認識することができる。</p> | <p>A 受動態をきちんと理解することができる。</p> <p>B 相手の思いを理解できる。</p> | <p>A 他国の挨拶の仕方について正しく理解することができる。</p> <p>B 板書・教師の支援により、基本的な課題を解くことができる。</p> |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の行動観察 (口の開け方・声量・姿勢・態度・話しかける様子・発表の回数・発表の内容・課題に対する意欲・充実度) ワークシートの記入内容 ・ ノートの記入内容と量 ・ ノートの整理状況 小テスト、自己・相互評価【参考程度】、定期テストなど | | | |

5 指導計画 (総時間 7 時間)

| | | | |
|-------|-----------|------------------|-----------------|
| 第 1 次 | Program 3 | 受動態の導入と第 4 文型の理解 | 3 時間 (本時 1 / 3) |
| 第 2 次 | Program 3 | 本文内容理解 | 3 時間 |
| 第 3 次 | Program 3 | 受動態を利用した作文を書く活動 | 1 時間 |
| 第 4 次 | Program 3 | まとめ | 1 時間 |

6 本時の学習

- 題材 Sunshine English Course 3 Program 3 受動態
- 主眼 ペア・班で協力しながら、受動態を理解し、視点を変換し、表現の幅を広げる。
- 準備 課題カード、ワークシート、フラッシュ・カード、マグネット、タイマーなど
- 授業の過程

| | 学習内容・活動 | 生徒の反応 | 教師の手だて(印・・・評価) |
|----|---|--|--|
| 導入 | <p>1 英語で挨拶 2分</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師といつものように日常会話をする楽しさと適度な緊張感を味わう。例 天気、日付、曜日など (斉 個) | <p>ア いつものように自分たちなりに英語で挨拶する。</p> <p>イ 興味のある内容を期待しながら、挨拶する。</p> <p>ウ あまり積極的ではないが、挨拶する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 英語学習の Warming Up をさせる。 日頃から教師自身が元気で明るく、そして Classroom English をしっかり使い、聞くことに慣れさせ、より自然な英語学習の環境づくりをしておく。 生徒の注目を集める工夫 (声・表情・小道具) を加えて授業を演出する。 |
| | <p>2 課題学習 (聞き取り) 8分</p> <ul style="list-style-type: none"> 受動態を使った有名な物・有名な作品・有名な人・歴史上の人物に関するクイズに挑戦する。(個) | <p>ア 教師の説明をよく聞いて、答える。</p> <p>イ 自信はないが、聞こうとする。</p> <p>ウ ヒントを聞きながら、なんとか推測しようとする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 簡単な課題文の説明をし、英語で模範を示し、やり方を全員が理解したところで、クイズを出す。分かりやすいヒント・カードを出し、生徒に最後まで課題に挑戦させる。 受動態を使用した文の意味をおおまかに理解できたか。(理) |

| | | | |
|-------------|--|---|--|
| 展 開 | <p>3 課題学習（口頭練習） 15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布されたカードを持って、同じカードを持っている2人の仲間を探し、3人組を作り、教師に報告する。（3人組）2回 <p>Ex: What language is spoken in America? ア English is spoken in America. イ French is spoken in France. ウ 山口弁 is spoken in Yamaguchi.</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師に仲間と報告する。 | <p>ア 課題に積極的に取り組む。 イ 文の成り立ちを意識して挑戦する。 ウ ヒントを聞きながら取り組む。 エ 視覚的に訴えるものであるカードを頼りに取り組む。 オ あまり意味が理解できない。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 生徒のつぶやき、友だち同士の助け合いを大切にし、単語の例や文型を示す。 主語の人称は単数・複数で決定することと使用する動詞のbe動詞を意識させる。 be動詞の種類の確認など文法をカードで素早く確実にする。 情報や友だちの思いを伝えることの大切さ・留意点の確認を全体でしておく。 レポートの仕方の確認をしておく。 生徒の様子を観察しながら、個別指導のきっかけをつくる。 |
| | <p>4 課題学習（パズル） 15分</p> <ul style="list-style-type: none"> 各班でパズルに挑戦する。（班） 班で協力して、分担して7つのパズルを完成させる。 <ul style="list-style-type: none"> 班で確認して、教師に報告し、ノートに書いていく。 | <p>ア 課題のやり方をきちんと把握し、班で協力してパズルに挑戦する。 イ 他の班を気にしながらも挑戦する。 ウ 課題のやり方がよく理解できないが、教師の支援で取り組むことができる。 エ 班の仲間に援助してもらおう。</p> <p>ア 丁寧に確認して、ノートに書く。 イ 班内の様子を見て、真似をする。</p> | <p>仲間と協力しながら、関わり合おうとしているか。（関）</p> <ul style="list-style-type: none"> ペア数の確認を黒板で行い、終わった生徒には指示をする。 <p>ワークシートを確認しながら巡回し、できるだけ多くの班の支援をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な時間設定や文章構成が理解できるようなパズルになるように配慮しておく。 生徒が気付くまで、カードの語順を示す色分けについてはふれない。仲間と協力して、パズルを作ろうとしているか。（関） <ul style="list-style-type: none"> 生徒の様子を見ながら、ターゲットの文型の解説をして支援する。 語順を理解して、口頭で表現できるように例示して意識させる。 生徒が自信をもつように、各班5つまではカードで判別・採点し、できた文はワークシートに書くように指示する。 やってみることに価値があることを言い続ける。 |
| ま と め | <p>5 レポート発表（板書） 8分</p> <ul style="list-style-type: none"> 完成したパズルを自主的に黒板にカードで貼る。 <ul style="list-style-type: none"> 完成した文章を読む。（斉 個）（個 斉） | <p>ア 積極的に課題内容を発表する。 イ 自己表現の一つとして発表する。 ウ 発表することに躊躇するが、教師の支援を得て最後まで言うことができる。</p> <p>ア 自分のノートの文章と比べる。 イ 解答を見て、確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の気付きを大切に、構文・文の構成の確認のため、カードを黒板に貼り確認する。 解答を配付する。 生徒の反応に応じて読む課題を設定し、時間を調節する。でき上がった文型をきちんと理解することができたか（理） |
| | <p>6 今日のまとめと宿題・次回の学習内容の確認 2分</p> | <p>ア 今日のまとめと宿題の確認をする。 イ 英語で挨拶し、次回の確認をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 今日の感想と課題の把握をさせる。 良い点と改善点を述べておく。 |

7 評価

- 他者とのコミュニケーションを図ろう・協力しようとする意欲を高め、関わり合う態度がとれたか。
- 受動態の用法を正しく理解し、be動詞と過去分詞を同時に使用するという形にはめ込み、書いたり話したりできたか。